

文部科学省

令和 6 年度

「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業
（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」

事業成果報告書

令和 7 年 2 月

目次

I 事業全体概要	1
II 事業の内容.....	2
1 職の魅力発信.....	2
(1)ハンドブック『ようちえんで待ってるよ！』を活用した小学6年生、中学3年生への出前授 業と保育体験の実施と評価(取組A)	2
(2)7月のオープンキャンパスなどを活用した小中高生向け模擬授業や個別相談。養成校生、 現職教諭等との多層型交流の機会の設定(取組B、C)	5
(3)幼児教育の「職」の魅力とは何か?	6
2 キャリア形成支援	17
(1)9月の交流イベントなどによる交流会と現職・若手教諭への幼児教育の専門的知見に基 づく相談の対応(取組D、J)	17
(2)協議会の継続と徳島県内の幼稚園、こども園の課題分析と徳島県教育委員会や国公 立幼稚園・こども園教育研究会、徳島県私立幼稚園認定こども園協会、附属幼稚園、他 大学等と連携した効果的なカリキュラムの開発(取組G)	22
(3)職の魅力再発見と現職教諭応援ハンドブック『ようちえんでがんばってるよ！-幼児を育 てる仕事をつづける楽しさ-』冊子の作成と配布(取組D、F、J、L)	25
3 メタバースを中心とした「職」の魅力向上と発信のプログラムと関係諸機関との連携.....	27
III 事業全体のまとめ	36
1 事業の成果.....	36
2 今後の課題と展望	37
謝辞.....	38

I 事業全体概要

①本事業を取り組むにあたっての課題背景

昨年度は、小中高生に対して保育体験や幼児教育の重要性に関する講演、出前授業などの取組を通じて、幼児教育や幼稚園教諭という職の意義と魅力を広く発信してきた。具体的には、児童生徒が仕事への関心や疑問をもつきっかけを得られるように、出前授業後にはアンケートを実施し、その結果をもとにハンドブックを作成している。また、オープンキャンパスといった養成校の取組を周知できる場を活用し、模擬授業や個別相談などを通じて幼児教育に対する理解を深めると同時に、養成校の授業や実際の大学生活について、養成校の学生が小中高生へ情報提供する機会を設けた。こうした取組により、幼稚園教諭の仕事や養成校に対する興味・関心を高める成果が得られている。さらに、2月には交流イベントを実施して高校生や養成校生が卒業生（現職教諭）と直接交流し、幼稚園教諭として働く姿を身近に感じながら目標とする保育者像を明確に描けるよう支援する試みも行った。また、新たに構築したメタバースを活用して、幼稚園教諭の仕事や魅力の発信に加え、多層的な交流や相談の場を設置している。これらの取組を評価・改善しながら継続・発展的に推進していくことが、幼稚園教諭という「職」の魅力をさらに高めると同時に人材確保の好循環を生み出すために重要であると考えられる。また、幼稚園関係諸団体との連携強化においても、メタバースが有効なツールとして機能することが期待される。

②本事業の目的

本事業では、昨年度に実施した各種取組の成果を検証するとともに、それらを継続・発展させた事業展開の中で、より効果的な方略を明らかにすることを目的とする。具体的には、保育体験や講演、オープンキャンパスや模擬授業、現職教諭との多層的な交流会など、複数のアプローチを総合的に評価・分析し、徳島県教育委員会や幼稚園関係諸団体、大学等と連携することで、さらに効果的なカリキュラムの開発や若手教諭を支援する仕組みづくりを進める。また、メタバースを中心とした「職」の魅力向上と発信のプログラムをどのように幼稚園や関係機関の連携へとつなげ、より持続的かつ多方面への人材確保の好循環を生み出すかを解明する点も本事業の大きな柱である。適切な職業紹介事業の普及啓発や周辺幼稚園等のPR機会の設定など、自治体の実施する施策とも連携しながら、養成校生や現職教諭が互いに学び合い、「職」の魅力を社会に向けて発信する環境を整備することをめざす。あわせて、潜在幼稚園教諭の掘り起こしや男性教諭を含む職域拡大の取組なども促進することで、より幅広い人材の参入を実現し、幼児教育における人材確保の好循環を生み出すことが期待される。

Ⅱ 事業の内容

1 職の魅力発信

塩路晶子・佐々木晃

(1)ハンドブック『ようちえんで待ってるよ!』を活用した小学6年生、中学3年生への出前授業と保育体験の実施と評価(取組A)

昨年度作成した『ようちえんで待ってるよ!』のハンドブック(図1-1)を活用して保育者・大学生・高校生・中学生に対してそれぞれ授業を行ったところ、図1-2～図1-6のような評価結果となった。回答者数は318名(小学生18名、中学生48名、高校生42名、大学生22名、保育者18名)である。



図1-1 ハンドブック『ようちえんで待ってるよ!』表紙

幼稚園教育の目的の理解については、70%以上の高校生から保育者が「とてもあてはまる」と回答している。幼稚園の仕事内容の具体的な理解については、70%以上の中学生から保育者が「とてもあてはまる」と回答した。小学生で「とてもあてはまる」と回答したのは90%以上であった。

「環境を通して行う教育」についての理解は、中学生の「とてもあてはまる」回答が58.3%、小学生が44.4%であったが、これは幼稚園教育の専門性に関わる部分であるため、理解が難しい側面があったと思われる。

さらに「遊びを通して行う総合的な指導についてのイメージ」は、65%以上の小学生から保育

者までが「とてもあてはまる」と回答しており、ハンドブックの中の子どもと共に遊ぶ保育者の指導を描いた漫画も理解の一助になっていると考えられる。

幼稚園教諭の専門性や仕事の重要性の理解は、57.1%の高校生が「とてもあてはまる」と回答する結果となった。高校生は小学生・中学生よりも自らの進路を具体的に考える時期であり、幼稚園教員という仕事の重要性を自らの将来に関連させて、真摯に受け止めた結果なのではないだろうか。一方で小学生と中学生は、学校の家庭科やキャリア教育の中で、幼児教育や幼稚園教員について学んだり出会ったりする機会もあるが、ハンドブックを手にして改めて「仕事」としてとらえるきっかけになったと考えられる。

以上のように、『ようちえんで待ってるよ！』のハンドブックは、現職保育者だけでなく、これからの幼児教育を担う若い人たちに向けても、その魅力を具体的に伝えることに大きく貢献できたと評価する。

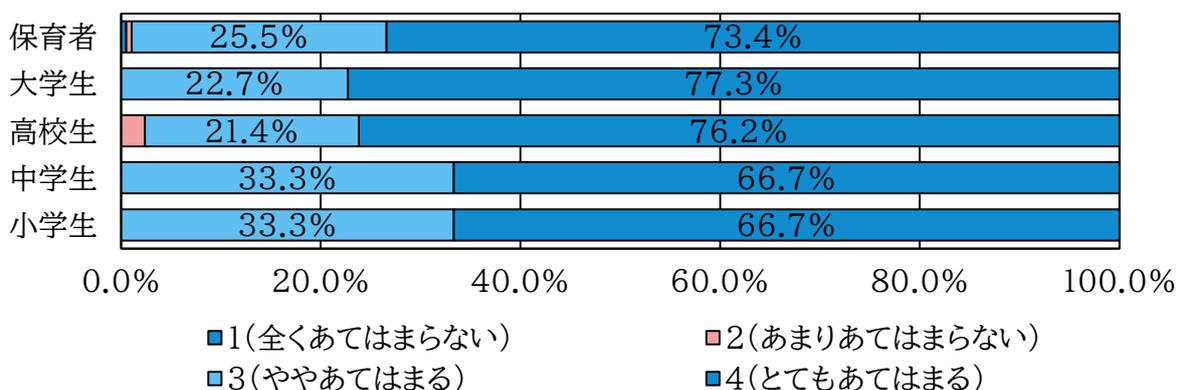


図 1-2 幼稚園教育の目的が分った

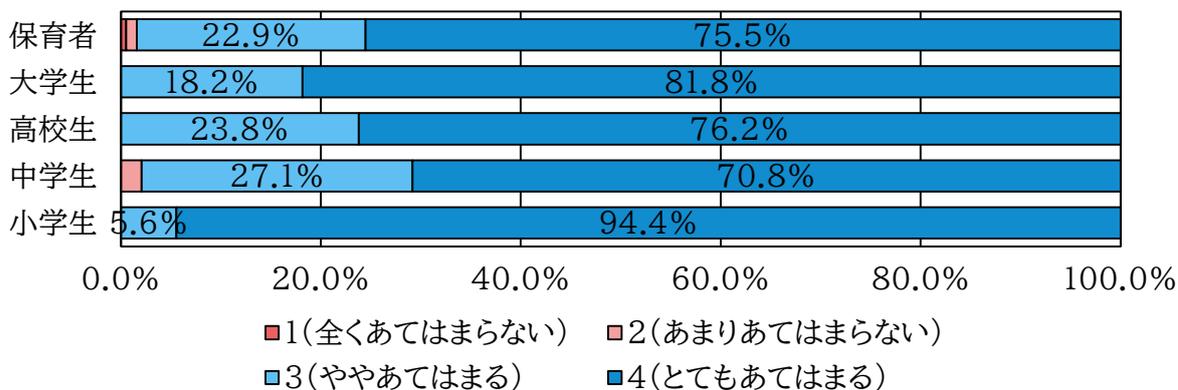


図 1-3 幼稚園の仕事内容が分った

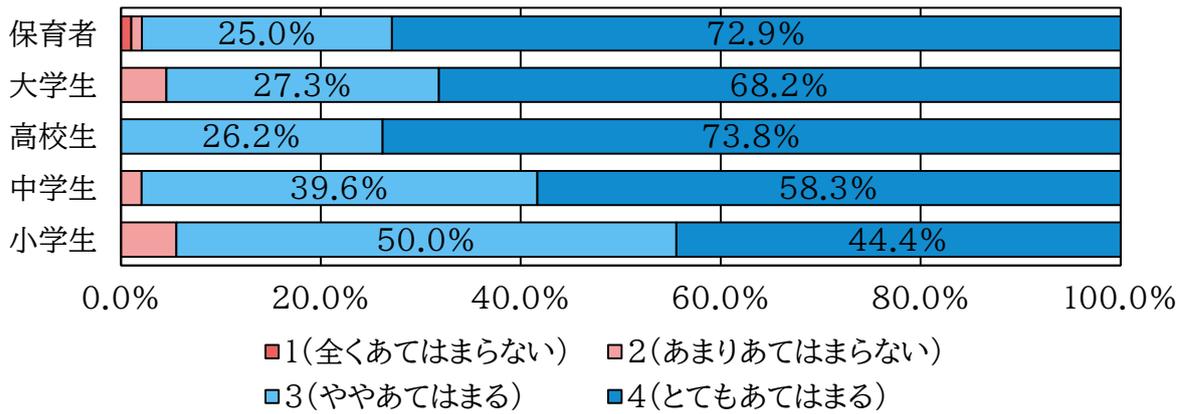


図 1-4 「環境を通して行う教育」について理解できた

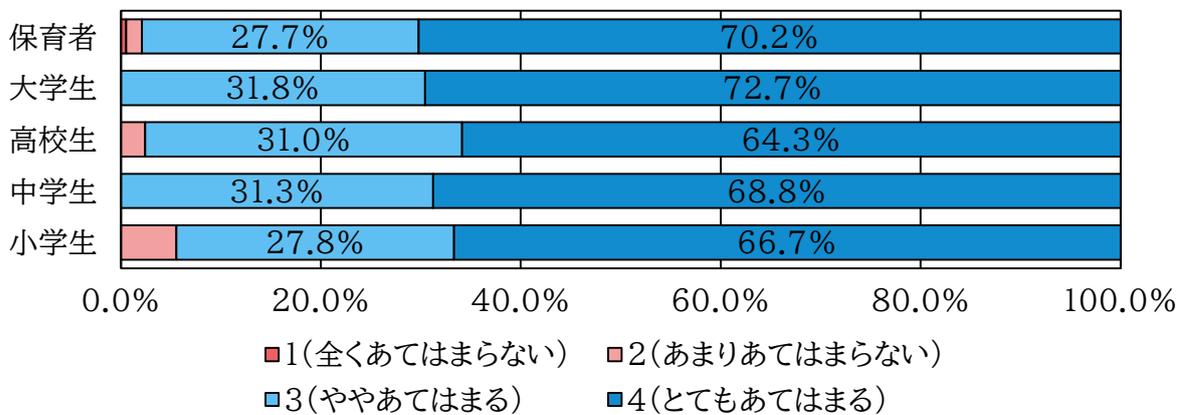


図 1-5 環境遊びを通して行う総合的な指導についてイメージできた

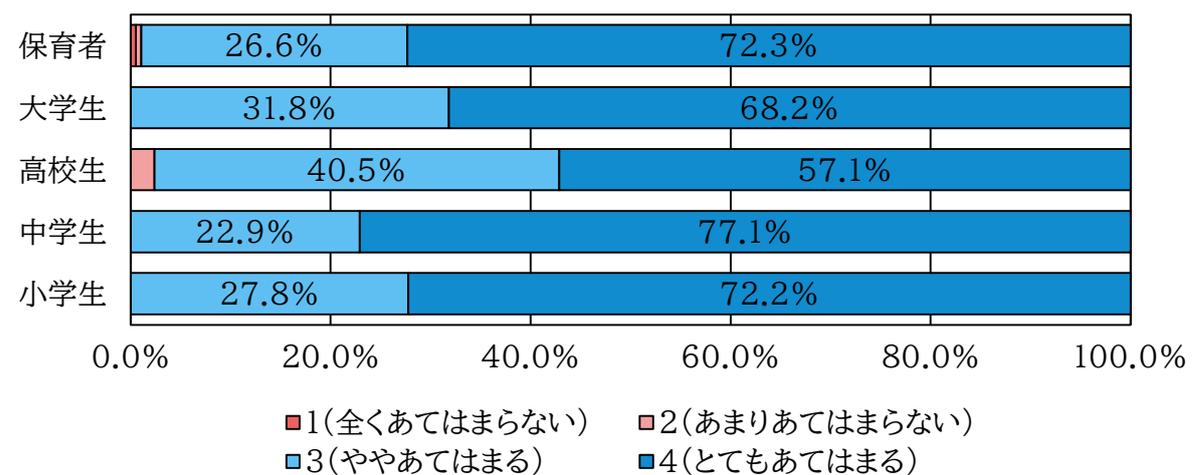


図 1-6 幼稚園教諭の専門性や仕事の重要性が理解できた

(2)7月のオープンキャンパスなどを活用した小中高生向け模擬授業や個別相談。
養成校生、現職教諭等との多層型交流の機会の設定(取組B、C)

1. フレッシュ研修(5月27日)

- ・ 対象:新人保育者
- ・ 教育委員会による新人研修において、ハンドブック『ようちえんで待ってるよ!』を活用して研修を行った。
- ・ 新人研修に大学生(5名)が参加し交流した。新人教諭への個別相談実施(2名)。

2. 「1日鳴教大生」(7月22日~27日)

- ・ 対象:高校生対象(参加者8名)
- ・ 保育内容などの授業に参加し、幼児教育の目的や保育内容について大学生と一緒に学修した。

3. オープンキャンパス模擬保育「遊びのワークショップ」(7月27日)

- ・ 対象:高校生(参加者96名、保護者12名)
- ・ 遊びを体験し、ハンドブック『ようちえんで待ってるよ!』を用いて遊びの意義や面白さ、指導のコツやポイントを学んだ。
- ・ イベントの後、高校生とその保護者と個別相談実施(8名)

4. 出前授業

- ・ 対象:徳島北高校1、2生(42名)(11月22日)
- ・ 吉野川市飯尾敷地小学校6年生(18名)(12月10日)
- ・ 鳴門教育大学附属中学校2、3年生(108名)(12月1日~17日)
- ・ ハンドブック『ようちえんで待ってるよ!』を用いて遊びの意義や面白さ、指導のコツやポイントを学んだ。

5. 他大学への出前授業「保育者ほど素敵な仕事はない」

- ・ 対象:甲南女子大学2年生(88名)(5月28日)
- ・ 名古屋学芸大学3、4年生(100名)(11月8日)
- ・ 講演を通して幼稚園教育の目的や仕事、遊びの意義や面白さ、指導のコツやポイントを学んだ。

(3) 幼児教育の「職」の魅力とは何か？

① 出前授業や講演会、学会での評価を得た遊び

本事業は「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業」であるが、「幼児教育の『職』の魅力」があることを自明として、向上・発信の方略に傾倒している感じが否めない。そこで、本稿では、改めて「幼児教育の『職』の魅力」とは何かを問いたいと考えた。無論、幼稚園教諭個々において「幼児教育の『職』の魅力」とするところ異なるであろうが、ここでは外側の人間が共感し期待する「幼児教育の『職』の魅力」という視点から検討を試みたい。

昨年度より、本学は小学5年生から中・高校生、養成校の大学生までの児童・生徒・学生を対象に出前授業を実施してきた。さらに、新規採用の幼稚園教諭・保育教諭から園長・所長・施設長などの管理職研修までの各キャリアステージ別研修やPTA保護者研修を含めると、出前授業や講演会(以下、「出前授業」に含める)は2年間で50件以上を数えている。出前授業では講師と初対面のケースが多いので、授業の導入部分ではアイスブレイクを行ってきた。手遊びやクイズ、シンキングゲーム、グループエンカウターのゲームなど、幼稚園での活動の一部を紹介して、幼稚園教育や幼稚園教諭の仕事の魅力を実地で伝えようという意図である。様々な導入のアイスブレイクの中で、児童・生徒・学生を初め現職教諭や保護者達に最も評価を得ているのが、次に紹介する「猛獣狩りに行こうよ」(作詞・作曲 不明)のシンキングゲーム、つまり遊びである。そこで、この遊びを分析することで、児童・生徒・学生の関心を得る「幼稚園教諭の『職』の魅力」や、幼児教育の専門性の発信内容や方法について現職教諭たちが期待している事柄を明らかにしたい。

以下のプレゼン資料は2024年12月15日(日)に開催された日本乳幼児教育・保育者養成学会 第5回大会の同学会長の無藤隆氏との対談(司会:砂上史子)の資料を転載した。内容は出前授業で使用しているスライドの一部である。さらに、学会員からの評価と共感を得た内容であり、無藤会長から幼児教育・保育者養成校の「幼児教育・保育職の希望者や従事者確保のために重要な『職』の魅力発信方略」とされたものである。

2. 遊びの楽しさ発信

・「猛獣狩りに行こう！」

「楽しい」「うれしい」「美味しい」は、最も基本的な自己実現の途
 幼児の自己肯定感、有能感、ウェル
 ビングのあるれる幸せ空間を作り、
 資質や能力を育てるおもしろ空間
 を創造するのが私たちの「技」、
 保育技術なのだ。



小学5年生、中学生、高校生、大学生
 そして現職の保育者達、そして、保護
 司や会や幼小中接続研究会でも..最
 も受けたアイスブレイク「遊びを通して
 行う、総合的指導の実際」です。



音節分解

・「ゴリラ」? ご・り・ら

拗音や長音などの出現で議論。例えば、「ジャガー」
 音韻的(モーラ)とらえる4歳児、文字的に捉える6歳児

・しりとり

・回文「たけやぶやけた」



音声言語(話し言葉)と文字言語の発達

二次的言葉

主に児童期に入って学校教育の中で習得してい
 く二次的言葉は、場面文脈を離れ、不特定多数の
 一般者を受け手とし、話し手から一方的に展開され
 る発話である。

一次的言葉

幼児期から発達してくる一次的言葉が、特定の
 親しい人との一対一の対話のやりとりとして、コ
 ミュニケーションを深めていくという性質をもつ。こ
 れは、具体的な現実場面のテーマについてなされ
 るため、言葉の文脈としては不完全であっても
 伝達は成立する。



刺激となる保育者の語り 例 七夕(行事)

「天の川は、天の川は、天の川は(「織姫」)の川。五穀や知の川
 まで、天の川の中にある星は、織姫とが年に一度の逢
 い。7月7日の夜に星を飾る行事。」

4歳児への語り

「七夕は、お星様がたくさん集まっている天の川をわ
 たって、織姫と彦星が会う日です。お星様に、世を飾っ
 ているいろいろなお願いをする日なんですって。みなさんは
 どんなお願い事がありますか?」

時間や空間を異にする世界の理解

行事の意味や由来、子どもたちに身近な文化について話さずして時、言葉
 遊び、時間空間を異にする世界を子どもたちに理解していただくこと

【遊びの説明】

身体ごと言葉や数で遊ぶ:猛獣狩りに行こうよ

身体を使ったシンギングゲームの中にも、数を意識
 しながら遊ぶものはたくさんあります。ここで紹介する
 のは、「猛獣狩りに行こうよ」です。動物の名前を構成
 する音節の数を素早く理解し、同時にその数に応じた
 仲間作りをするという、アクティブな遊びです。

リーダー(複数可)は、ほかの幼児たちに向かい合う
 格好で、膝を太鼓に見立てて元よく叩きながら、歌
 います。ほかの幼児は、リーダーをまねていきます。最
 初は、保育者がリーダーになって遊ぶと、子どもたち
 にわかりやすいです。このとき、「ゴリラ」と音節をは
 っきり区切って発音したり、例えば、「コモロオトカゲ」
 (8文字)のようにすごく長い名前を言ったりする例示
 も、子どもたちの興味をそそります。

リーダー:「ドンドコドーン ドンドコドーン ドンドコド
 ーン ドンドコドーン ドン オーツ」

(オーツと右手を突き上げて威勢よく)

幼児たち:「ドンドコドーン ドンドコドーン ドンドコド
 ーン ドンドコドーン ドン オーツ」

リーダー:「猛獣狩りに行こうよ」

(手を口にあてて叫びかけるように)

幼児たち:「猛獣狩りに行こうよ」

リーダー:「猛獣なんて、怖くない」

(顔の前で片手を振って怖くない表現をする)

幼児たち:「猛獣なんて、怖くない」

リーダー:「だーって、鉄砲もってるもん」

(指を構えて鉄砲のポーズをとる)

幼児たち:「だーって、鉄砲もってるもん」

リーダー:「槍だって、もってるもん」

(右手で槍を掲げるポーズをとる)

幼児たち:「槍だって、もってるもん」

リーダー:「あっ あっ ああああああ」

(指を指して、その場で回りながら、動物の名
 前を考える。幼児たちも同時にまねた動きをし
 て回りながら、リーダーの言葉を待つ。)

リーダー:「アフリカゾウ」「ゴリラ」

幼児たちの中にリーダーも入って、6人(「ゴリラ」な
 ら3人)のグループを作る。一番早く、正確に、その動
 物の名前の音節の数のグループができると、その人
 たちが次のリーダーになれる。繰り返す。子どもたち
 は、自分たちが早くグループをつくれるように考えま
 すから、次第に「ゴリラ」の次は「アフリカゾウ」にす
 ると、2グループが合わさるだけでよい、など、数の合成
 や分解、倍数や約数を意識し始めるのも面白い知的
 試行錯誤ですね。

七夕にまつわる話のように、教師は、自分と子どもたちが今、ここに存在する「この世界」と、今自分たちの眼前には存在しない「その世界」とを結びつけたり、「今のこの世界」を「眼前にはないその世界」の一部としてとらえ直すという働きをしているといえる。



ごっこ遊びや劇遊びなどは、言葉のもつ象徴機能によって、「架空の世界」を、演じ手や観衆となる子どもたちが共有しているが、これら言葉によるイメージの創作想像によってなされている。



「教科」と「領域」の違いは発達特性の違い

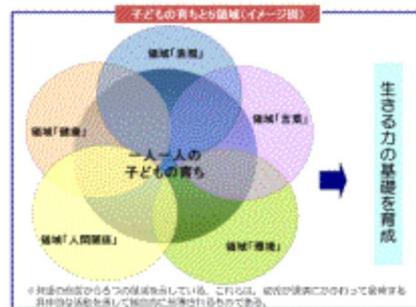
教科とは？

小学校以降の学校教育で、児童・生徒が学習する知識や技術を系統立てて組織した一定の分野。
国語・社会・算数・理科など。



領域とは？

乳幼児期に経験することが望ましい、「生きる力」の基礎となる経験。



ねらいは資質・能力を育てるための指導事項「ねらい」の方向目標。達成目標と異なります。

ゴールを目指す○



ゴール○

②幼児教育の特性や特徴の理解を促し、専門性を発信するために

幼児教育の魅力でもあり、理解の困難さにもなっているものが、「環境を通して行う教育」と「遊びを通して行う総合的指導」の2つの特徴だといわれている。これら教科書を用いない教育方法は幼児期の発達特性や課題を鑑みると必然的で、その後の児童期や青年期の教育方法や内容との相違は当然のことと理解できるが、一般にそれを分かりやすく、かつ納得のいくように説明すること

とは容易ではない。模擬保育やデモンストレーションで幼児教育の専門家としての知識や保育技術といわれる指導のスキルを見せて説明することが、児童・生徒・学生たちの幼児教育への理解や憧れを促すことはいうまでもないが、ここに「環境を通して行う教育」と「遊びを通して行う総合的指導」の実際を目の当たりにしてもらうことが幼児教育の「職」の魅力を発信するときの基本となるであろう。

幼児の遊び世界をのぞいてみよう！
幼児と自分の発達が見えてくるよ。

平成5年5月 3歳児星組
「せんせい、お外、うおん うおん 怒っとるよ」園庭でヒーローごっこをしていた3歳児たちが保育室に駆け込んできた。おびえた様子で、表情もこわばっている。
「そんなに怖いか、どれ どれ」私が外へ出ようすると、子どもたちもついてきた。私の背中に隠れて風を防いでいる。「すごい風。横殴りの雨。ひゅーん」と私がおどけながらとばされいく振りをする。今度は子どもたちが前に立って、私を守るようにする。そして、「いくぞ、キックだ」と、小雨交じりの風に向かっていく。強く吹きつける風が掲揚ポールのロープを「ぐおん ぐおん」と鳴らしている。



3. 保育者としての喜び

まず、一人一人の素敵なおところや好きなところを見つける。そして、「あなたの せんせい」「わたしの子ども」の関係を築いていく。

さらにね「幸せ空間」をつくり、探求や表現へと導き、「面白空間」を共に創造していく



本学の出前授業においては、幼稚園教諭や保育教諭、小学校教諭、保育士などの保育職を希望する者だけでなく、様々な仕事への夢や希望をもつ児童・生徒・学生たちの割合は多い状況にあった。また、PTAや保護者会においても同様であった。彼らには歌や手遊びでは、幼児に楽しさを与える親しみのある、好ましい存在としての役割は伝わるものの、楽しさや面白さの背景にある幼児

期の発達に関する知識と保育技術に裏打ちされた根拠のある指導、つまり専門性に対する尊敬や憧れは形成されにくかった。その中で、「猛獣狩りに行こうよ」は楽しさの背景にある人間の言葉の発達を軸として、保育内容の「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」のねらいや内容に関わる体験内容、小学校の国語科にも接続していく学校教育としての連続性が理解しやすいテキ

ストとなっていた。また、単に文字を教えるという先取り教育ではなく言語感覚や数量感覚(数の合成や分解など)、楽しさにおいて引き出される幼児の能動性や好奇心、探究心、友達とのコミュニケーション能力などの重要性を実感するイントロの活動となった。

したがって、専門性を踏まえた「職」の魅力を発信するために必要なプレゼンテーションの方略としては次の事柄が確認できた。

事例 なんでも浮くの 5歳児 6月末

「先生、ぶんなげてください。よろしくお願いします」「ほくは、スーパーぶいんがいで」「わたしは、イルカジャンプで」
 次々と保育者のところに並ぶ子どもたちをリクエスト通りにあげると、わざと水中に沈んで、「ぶはっ」と浮かび上がってくる。
 「どんな格好でも、浮かんでくるなあ」「息吐いても、ためといても浮かぶなあ」タケトとカツキが話しているところへ、ケンジロウが口を扶む。「重くても浮かぶんかなあ。なあ、先生、浮かぶの」皆が保育者の方を見る。「えっ、試してみようか」保育者が子どもたちの見守る輪の中にザブッと倒れて浮かぶと、皆、手をたいて沸いた。

「ほくがのっても」「わたしがのっかってても」次々と子どもたちが保育者の身体に馬乗りになってくる。
 「オーノー。＊タイタニック。タイタニック。ヘルプミー」と保育者がおどけて言うと、「ヘルパー」「ヘルパー。ミー。泳がせてー」と子どもたちは笑いながら抱えついてきた。

＊デカプリオさんの有名な映画だよー



① 幼児教育の「保育のち・か・ら」の実感を促すために

躍動感のあるパフォーマンスで、参加者の幼児教育を志す連帯感と高揚感を高める。

② 「保育の技」へのリスペクトを得るために

参加型のパフォーマンスで触れる、具体的な保育技術から、その根拠となっている幼児の心理や幼児期の発達理解、教育方法の理論といった保育の本質へ向かわせる。

③ 保育の「知性」への憧れと関心を高めるために

養成校への進学に期待や誇りをもち、修学と実習に励む。

③養成系学生への出前事業の評価

本学の他、昨年度は X 大学、今年度は Y 大学、Z 大学などで約300人を対象に出前授業を行った。前述のスライド加えてに次のような内容で語りかけている。

4. 悩ましが成長につながる

若ヤギ時代のあやまちと学び



保育日記

(平成元年 新任時代)

6月27日(日)

今日、研究会から帰り、遊戯室の積み木のところへ行くと5、6個の積み木にマジックで落書きがしてあった。

何ともいえぬ不安感と後ろめたさがこみ上げてくる。しばらく研修でクラスを開けていた間に子どもたちのことがわからなくなってしまったのではないかと不安である。

よし。明日は彼らとサンドペーパーで一生涯積み木をこすり、得体の知れなくなってしまった僕自身の存在を確かめられるはず。

6月28日(月)

積み木にサンドペーパーをかける。消すこと、粉が出ることに興味を持つ、大人でやることにも興味、やっていることの原因について眺めることは少なかった。

このことから、落書きの裏には直接的な意図が読み取られず、逆に、潜在している不満が表出していることが考察される。四月中頃から、自分で考え行っていく生活ができていなかったのか？子供たちの気持ちが読み取れていなかったのか？と不信半端になる。ただ、みんなで気持ちよく積み木を使うためにどう生活するか？どうやり直すか？については、少ししんみり話し合った。

保育って、
独りよがり
じゃできない
んだ...



「幼児理解なんて無理。せめて美しき誤解であれ」と
聞き直った5年目のターニングポイント



作: ルース・スタイルスガネット
絵: ルース・スタイルスガネット
訳: 藤田茂身
出版社: 福音館書店

ダイチくんは小学5年生のとき膠原病入院。お母様から「学校のことや進学のことなど、未来のことを考えると辛くなるから、さざきせんせい、昔の幼稚園時代の話をお聞かせしてやって」と電話をいげたく。

ダイチくんから「顔から火の出るようなハズカしい事実」を聴く。この体験が本気で「書く」ことの原動力となった。

「自分の中に映る子どもを思い描くのでまだだ」
鏡の中の鏡を覗くようなものだ と 反省すると共に、都合のよい解釈も...



「幼児理解」も「分かる」も刃でバラバラに分けて、よく見極めることなのですが、

子どもと分かち合っていく、歩み寄っていくということも、また、真理なのではないかとダイちゃんの事例は問いかける。

分かつとすること、分かってもらおうとすること相互が作用し合うことによって理解は成立しているのかも？

太陽と月が互いに引き合うことで保育も理解も形成されているような感じ。

「分かる」って、「分かつ」なんだ。と聞き直る。



保育者としての成長の実感

少しずつ少しずつ自分のカタチ
ができてきたような...

保育の仕事で、自分のしたいこと
やできることが、なんとなくでき
てき喜び...



子どもと一緒に、私自身の人格形成もやり直せそう・
自分の事が好きになれそう・
私でも人の役に立てる、社会に、未来の創造に貢献できそう・

【学生の授業評価】(Y 大学ゼミ担当教員からの通信とレポート転載)

……最後になりましたが、私のゼミ生が書いた振り返りのレポートを本メールに添付いたします。レポート1は、悩みながらも一般企業に就職することを決めた学生のもの。レポート2は給与が高い園よりも、保育者の人柄が温かい雰囲気のあるこども園を選択して、就職が内定している学生のもです。この時期に、保育の意義深さ、面白さを再確認できたことは、4月から社会人になる学生たちに、保育者になることへの期待と希望を膨らませることができたのではと感じています。

<レポート1>

今回の講義を聞いて、やっぱり保育って楽しそうだな、すてきだなと改めて思った1時間半となりました。冒頭の自己紹介では、「三度の飯より保育が好き」とおっしゃっていたように、心から保育の現場を子どもたちや周りの先生とともに楽しんでいて、だいすきな方なんだと伝わりました。

先生のお話の中で、一番印象に残った言葉は「幼稚園は教科書がない教育」です。小学校みたいに、分野ごとに分かれているわけでもなく、評価方法もまた異なっている、日々の遊びの中で総合的に育てていくんだとおっしゃっておられました。だから、保育をする際には日案、週案、月案、そして、製作を行うときやゲーム1つするとなった時には、事前計画と準備が必要なんだと思いました。評価については、方向性教育ということで、子どもたち一人一人の発達段階はそれぞれであるので、楽しんでいたらオッケイといったざっくりとした評価方法であると学びました。

今まで書いてきた指導案の様式には、ねらいや内容を書く欄が設けられており、例えば、○○を楽しむ。であれば、到達目標が楽しむことになるので、活動を楽しむということ自体に、きちんと意味があるということを学びました。模擬保育をするときに毎回書く指導案も面倒くさいな、早く寝たいとかしぶしぶ書いていたけれど、こんな大切な意味があったなら必要だし、書かなきゃという考え方ではなく、書きたいと思うように考え方を変えなければならぬなと思いました。4年生後期の授業で模擬保育がラスト1回残っているもので、意欲的に、そして子どもたちのために取り組んでいきたいと思うようなモチベーションへとつながりました。

また、先生が日々心掛けられている、ポジティブルールがすぐに真似してみようと勉強になりました。子どもたちとコミュニケーションをとるときに、「～しましょう」や、「～したら～できます」などと語尾を変えるだけで、どうしたら褒められるのかなと考えられるようになったり、ピンチに強くなったりするというお話を聞いて、人と良好な関係を築いていくためには、すごく大切な心掛けであると思いました。これらのことは、保育に限らず、社会に出ても役立つだろうし、普段の友人との会話の中でも役立つと思うので、少しずつ意識してポジティブルールに変えていきたいと思いました。

幼稚園の子どもたちや先生方の様子が映っていたDVDでは、5歳児クラスの製作の場面で、机の上に大きなテープカッターが1つ置かれているだけで、ひとりひとりが所持していない光景に気づきました。特にけんかをすることもなく、お互いに自然と譲り合う姿を見て、先生方が普段からポジティブルールで関わっている成果なのかなと思いました。

このように、保育のステキな一面にまた気づいてしまって、自分の本当にやりたいことって何だろうと見つめなおす時間ともなりました。とりあえず今は、目の前のことに一生懸命取り組んでいきたいです。

<レポート2>

今回の講演会を通して、保育者という職業がいかに魅力的であるかを再確認し、保育者としてどのように保育を行うと良いのかについて改めて学ぶことができた。講演会で特に印象に残ったことは、「適当な環境の中で適切な指導をする」という言葉の意味と「幸せ空間を作る」ということである。

始めに「適当な環境の中で適切な指導をする」という言葉の意味についてである。教授も講演会の中で話をされていたが、「適当」という言葉は、悪い意味にも捉えられがちであり、それゆえに保育者という職業が「誰にでもできる」と思われてしまう要因にもなる。しかし、「適当な環境」というのは、縄跳びの事例にあったように、子どもが「やってみたい」「やりたい」と思う動機付けをし、そう思ったらすぐに実践できる環境構成を行うこと、すなわち子どもが遊びに興味を持てる環境作りや成功体験を積むなどのねらいに向けて遊びのやり方を工夫することである。このような環境構成を行うためには、日頃から子どもの興味・関心のあることを把握できるように一人ひとりと関わること、事前に準備をしっかりと行うことなどが必要であると考えている。また、「適切な指導」というのは、その時の子どもにとって少し難しいことに挑戦できる遊びの環境の中で、保育者が全てやってしまうのではなく、子どもにできることは全て子どもができるようにし、少し危ないことは挑戦できるように見守りながら、怪我をしそうなどの危ない時にはすぐに助けられるように構えておくことである。このように子どもを見守りながら保育者が出るべきタイミングを見計らうことは容易なことではなく、専門的な技術が必要なことである。他にも専門的な技術が必要なことは多くあると考える。例えば、一つの遊びにおいても5領域10の姿における子どものどのような姿が育つのかというねらいをもって環境構成を行ったり言葉掛けをしたりしながら子どもと関わったり、様々なことに対する好奇心をもって取り組む力を育てられるように子どもの興味・関心のあることを基に保育を行ったりする。このように保育を行うことで、小学校以降においても興味・関心をもって学習に取り組むことができたり、乳幼児期に遊びの中で得た知識や学びが学習と結びついたりするのである。このように、保育者という職業は誰にでもできるものではなく、専門的な知識・技能が必要であり、一人の人間の土台の部分に関わる重要な職業であると改めて認識することができた。

次に「幸せ空間を作る」ことについてである。前述したように、保育者は一人の人間の土台の部分になる乳幼児期に関わる職業であるからこそ、自己肯定感や自尊心が育つように関わるのが非常に重要である。講演会で話があったように、自己肯定感や自尊心が低いと正しい自分の守り方ができず、自分や相手を傷つけてしまうことがある。また、乳幼児期に自分の存在すなわち自分の価値を認められる経験をするとは、自分の価値を自分で認められることにつながると考える。そのため、子どもに好きを伝えたり、少しの変化に気付いて声を掛けたりすることで、自分を見てくれている人がいる、好いてくれる人がいるということを子どもが感じられるように日々関わるのが大切であると考えている。さらに、子どもが何かに挑戦した時には挑戦したこと自体を認めたり、何かできるようになったり発見したりした時には思い切り褒める言葉を掛けたりすることで、子どもが自信を身につけられるようにすることが大切であると改めて学んだ。自信を身につけることで、自分の能力や出せる結果を自分自身で信じることができ、さらに難しいことに挑戦することができるようになる。このように自分を信じる力を育むことは、人生の中で非常に大切な力であると考えている。そのため、保育者は子どもの自己肯定感や自尊心、自信を育めるように「幸せ空間」を作ることが大切なのだ学んだ。

以上のように、保育者の専門性について学んだことや改めて考えることが多くあり、保育者という職業に責任を感じるとともに、乳幼児期に関わることでできる楽しさ、素晴らしさを感じることもできた。今後、保育者として働く上で、今回学んだことや感じたことを忘れず、保育者という職業に対して誇りをもち、「保育は楽しい」と感じられるように働いていきたいと強く思うことのできる講演会だった。

養成校において幼児教育の専門的内容を学んだ学生の的確な感想と評価内容が伝わってくるレポートであるが、重要な点は他にもある。それはレポート1の「悩みながらも一般企業に就職することを決めた学生」の様なケースである。我々が潜在的幼稚園教諭・保育者として期待するのは免許や資格をもった人材というよりも、むしろ幼児教育・保育に関心をもった人材のことを指す。実際、本学附属幼稚園でも元保護者であった薬剤師や音楽教室講師等、幼稚園免許を持っていない人材が、県教育委員会へ臨時免許状の申請をして資格を取り、幼稚園に勤務している。養成校の学生たちはもちろん、幼稚園や認定こども園など、幼児教育に関わる学生や保護者、関係者など、広く幼児教育の「職」の魅力を発信し、広げていくことが長い目で見た人材の確保につながる事が容易に推察できる。

④保育の魅力を高める保育者養成の取組と展望

日本乳幼児教育・保育者養成学会会長 無藤 隆(白梅学園大学)¹

① 子どもの遊びの楽しさを映像で発信する

- ・ 子どもが保育場面で楽しく充実して生き生きと活動している具体的な様子を伝える。
- ・ それは何より映像が有効だ。
- ・ しかもその遊びは子どもたち自身が作り出すものであり、大人が楽しませるとか、遊具が面白くさせているという以上に子どもの工夫によるのである。
- ・ それは多くの保育者が保育に関わる理由でもある。
- ・ さらに保育の質をよくしていく最大のポイントでもある。

② 幼児教育の知的な面白さ

- ・ 幼児教育・保育が単なる子どもを預かるだけのことでなく、子どもを楽しませることでない。そこに子どもが園の環境で関わっていくあり方の中で楽しさが充実し学びにつながるのである。
- ・ そこに関わり援助する保育者の手立ても多様にあり、複雑でかつ繊細である。
- ・ その子どもの様子のポイントや援助の複雑さを言葉にすることができるし、そこから生まれる学びとそこに向かう過程の遊びの発展のあり方を論じることができる。それは保育者として挑戦的な高度な営みなのである。

③ 保育者は各種の「わざ」があり、その熟達があつて、保育は成り立つ

- ・ 保育は常に具体的な場面の中で、特定の子どもたちに対して、子どもの活動の展開に応じて繰り出していくものである。
- ・ そこではどう子どもに関わり、どう環境設定をして、どう子どもの活動の発展を助け、どうその行き詰まりを超えていくヒントを出すかについての具体的な構想と共に、教材や援助する関わりや言葉のある程度他の人も活用可能な手立てがほとんど無数にある。
- ・ 保育者が熟達していくとはそのわざを場面・活動に即して工夫し、先達者に倣い身につけていくことであり、その始まりは養成校における授業にこそある。

④ 保育者としての喜び・悩み

- ・ 保育者として初任でも長年でもそこに喜びがあり、悩みがあるものだ。まずそこを表に出していき、できれば、それが喜びとやりがいにつながることを示していきたい。
- ・ あまりに給与や働き方で(今や一部になってきつつある)過酷な労働条件のところの実情にマスメディアの関心が強いのではないか。民間園にしても公務員ベースに近づきつつある昨今として、その改善状況を発信するとともに、保育の仕事の楽しさ・面白さを伝えていくべきだ。
- ・ 同時に専門職である以上、そこにさらなる仕事を続け、その質を高めていく上での大変さはつきものである。それをどう乗り越えようと努力しているのか、その努力自体に価値があり、意味があることを含めて、発信して行ってほしい。

¹ 無藤隆先生に許諾を得て転載。

2 キャリア形成支援

木村直子・田村隆宏・垂髪あかり

(1)9月の交流イベントなどによる交流会と現職・若手教諭への幼児教育の専門的知見に基づく相談の対応(取組D、J)

①9月の交流イベント

2024年9月22日(日)に鳴門教育大学・講堂で開催された職の魅力イベント「保育者ほど素敵な仕事はないⅡ」では、地域の幼児教育を担う人材を輩出する大学等が拠点となり、効果的なキャリア支援の在り方や幼児教育の魅力発信の方法について検証するモデル事業を実施すること、モデルの全国的な普及、展開のため、人材確保、定着に係る課題解決施策を提案する、という趣旨のもと、本学佐々木晃教授による基調講演「保育者ほど素敵な仕事はない」(写真2-1)、及び、「創ろう！ 未来の保育『私の挑戦』」、「保育者としての生き方のヒント『私の場合』」とのテーマで10人の現職保育者によるエピソードの紹介(写真2-2)がプレゼンされた。エピソード紹介では、保育実践における様々な課題に対する挑戦や、保育者として苦勞したこと、それをどのように乗り越えてきたか、また男性保育者のキャリアステージ毎の頑張り、等について語られた。



写真 2-1



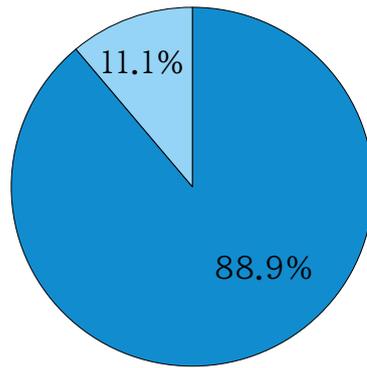
写真 2-2

本イベントの成果を確認するために、イベント参加者に対してアンケート調査を行った。回答者数は37名(幼稚園教諭13名、認定こども園保育教諭6名、大学院生7名、保育所保育士4名、行政関係者3名、その他2名)であった。まず、「本イベントは、いかがでしたか。」との質問に対して、“とてもよかった”が89%、“まあよかった”が11%の回答があり(図2-1参照)、イベントに対

して参加者に好評であったことが示唆される。「本日のようなイベントを実施することは、保育の職の魅力を向上させたり、発信したりする上で有効だと思われませんか。」との質問に対しては、“とても有効だと思う”が84%、“まあ有効だと思う”が16%の回答があり(図2-2参照)、参加者の多くが本イベントの保育職の魅力を伝えることの有効性を強く認識していたことが示された。保育の職の魅力を向上させたり、発信したりするためには、本イベントのような機会を重ねていくことの重要性が示唆されたといえる。また「本日のようなイベントが、また開催されるなら、参加したいと思いますか。」との質問に対しては、“ぜひ参加したい”が62%、“参加したい”が38%の回答があり(図2-3参照)、参加者全員が、同じようなイベントが開催されたら参加を希望するとの認識を示した。今後の取り組みとしては、保育職の魅力の様々な側面に焦点を当てて、その内容を吟味し、さらに、わかりやすく魅力が伝わるイベントの在り方を検討する必要がある。

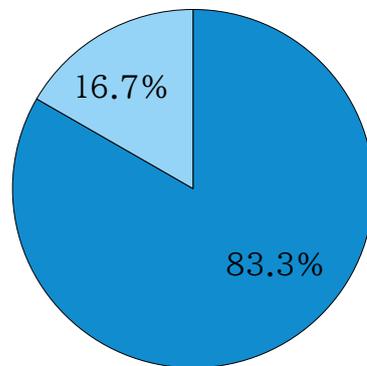
アンケートでは本イベントに参加しての意見や感想について自由記述で回答を求めた。その結果、「保育の魅力ややりがいを「確かに！」と思いながら聞き込んでしまいました。」「保育って楽しい！をこれからも、ワクワクを探して、挑戦していきたい」といった保育の魅力ややりがいを改めて意識したというものや、「自分の保育を見つめ直すきっかけにもなりました。」「保育をする中で大切にしていくなりの視点を学ぶことができました。」「私自身にできることがないか、普段の業務や今後のことを考え直すきっかけとなりました。」といった自らの保育に対する認識の変化を示すもの、「自園の若い先生への関わりを見直すヒントを得ることができた。」といった職場の人間関係に対する再認識に関わるもの、「改めて、保育者としての誇りと気概が増しました。」といった保育者としての職業意識の高まり、「刺激と勇気をいただけます。」「いろいろな経験談に勇気付けられました。」「自分ももっと頑張らなければと背中を押されました。」といった保育の仕事に対する勇気づけ、「幅広いところに周知できたらいいと思います」「自ら職の魅力を発信していきたい」といった、自らが保育の職の魅力を伝えようという意識の高まり、に関するものが挙げられ、様々な側面の認識が本イベントに参加とすることによってポジティブに変化していることが確認された。

総じて、本イベントは保育の職の魅力を伝えることはもとより、現職保育者の日頃の保育の在り方に対する再認識、職業意識の高まり、保育の仕事への勇気づけなど、保育職に関わる様々な側面にポジティブな効果が確認され、取り組みとして極めて効果的なものであったことが確認された。



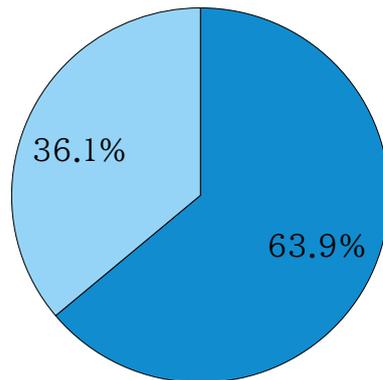
■とてもよかった □まあよかった

図 2-1 「本イベントは、いかがでしたか。」



■とても有効だと思う □まあ有効だと思う

図2-2 「本日のようなイベントを実施することは、保育の職の魅力を上昇させたり、発信したりする上で有効だと思われませんか。」



■ぜひ参加したい □参加したい

図 2-3 「本日のようなイベントが、また開催されるなら、参加したいと思いますか。」

②9月の交流会における現職・若手教諭の思い

2024年9月22日(日)のイベントでは、ランチタイムに交流会を実施した。ランチ交流会では、予めディスカッション・テーマを設定し、図2-4の資料を配布した(図2-4)。

イベントには、当日、全国より様々なキャリアや立場の保育者が集まるため、初対面であっても、有意義な交流ができるように、各グループにファシリテーターを配置した。ファシリテーター役割には、本学の遠隔大学院に所属する大学院生(現職の保育者で管理職経験者)を配役した。ファシリテーターの方々には、事前打ち合わせを行い、参加者の誰もが居心地よく過ごせること、どの人も1度はお話をできるように配慮すること、ディスカッション・テーマの中からいくつかのテーマで話し合うこと、個人情報に留意することなどを配慮事項として伝えた。ファシリテーターは各グループ1~2名配置した。

当日の参加者は、71名であり、7つのグループに10~11名が着席された(写真2-3)。参加者の属性は、国公立幼稚園の保育者、公立保育所の保育者、公立認定こども園の保育者、教育委員会課長や指導主事、幼児センター長、養成校の教員、大学院生、大学1年生、大学生の保護者などであった。同じ保育施設から複数(2~4名)で参加されている傾向もあり、園長・主幹・ミドル・フレッシュと、様々なキャリアの保育者が参集した。また、男性保育者(幼稚園教諭等)の参加も散見された。

どのグループもディスカッション・テーマを柱としながら、温かい和やか雰囲気の中、熱心に議論が交わされていた。7つのグループでは共通した話題内容として、保育者の離職や職業継続の問題、同僚や若手保育者の指導の難しさやその工夫の問題、働き方改革や感染症の影響など社会状況の影響による問題、そして保育者の魅力の再発見に関する問題が多くグループにおいて話し合われた。離職や職業継続と合わせて、人材確保は現場でも喫緊の課題であり、職場内の働き方改革や、ライフイベントに合わせた休暇取得の保障の工夫、一人で担任を持つことへの負担感をいかに軽減するか、中高生にどのように発信していくかが課題として挙がっていた。また保育士になると行政より優遇措置(学費免除、一時金など)があるが、幼稚園教諭にはそのような制度がないこともハンディになっているとの意見もあった。今回の交流イベントの中で、様々なキ



図 2-4 ランチ交流会配布資料

キャリアの保育者が自分の言葉で語り合うことによって、幼稚園教諭の職の魅力を再発見することにつながったため、こういった交流するイベントを継続的に実施してもらいたいとの意見もあった。さらに、交流会の中では男性の参加も散見され、男性幼稚園教諭については、「男性ということで年度初めは、保護者の理解が得られにくいこともあるが、保育していく中で、信頼を得ていく」といった意見や、人材確保として園内に男性保育者の会を発足し、支え合っているという意見もあった。



写真 2-3 ランチ交流会の様子

(2)協議会の継続と徳島県内の幼稚園、こども園の課題分析と徳島県教育委員会や
 国公立幼稚園・こども園教育研究会、徳島県私立幼稚園認定こども園協会、附属幼
 稚園、他大学等と連携した効果的なカリキュラムの開発(取組G)

本協議会は、附属幼稚園をはじめ徳島県教育委員会、徳島県国公立幼稚園・こども園教育研
 究会、徳島県私立幼稚園・認定こども園協会、四国大学、徳島文理大学のからの代表が委員と
 なって校正している。様々な関連イベントに参加してもらいながら本事業内容の企画や評価を行
 い、徳島県下の幼児教育の課題解決のための協議を進めてきた。本事業の成果が徳島県内の
 幼児教育の課題解決と進展に寄与することのできるシステムである。幼稚園等教諭教員育成指
 標モデルの作成から、キャリアステージごとの研修支援まで一貫した協力体制で臨んでいる。

表2-1 幼稚園等教諭 教員育成指標モデル

キャリアステージ	採用時に本業が求められる			
	養成期	基盤形成期	〈第2ステージ〉 伸長・充実期	〈第3ステージ〉 深化・発展期
使命感・情熱・たくましさ	○教育の愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○「とくしま」を受け、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を自覚し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○使命感と熱意への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	
倫理観	○社会人としての常識やマナー、道徳性を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○教育公務員としての自覚をもち、法令等を遵守し、誠実かつ公正に職務を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○家庭や地域の信頼に応え、法令等の遵守を真摯の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	
人権尊重の精神	○自己を大切にし、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○幼児一人一人の抱えている悩みや個性を把握し、差別やいじめを許さない環境をつくることともに、教育の愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○園や地域の人権に関する課題の解決に向けて、地域・関係機関等とともに協力し、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	
謙虚・学び続ける力	○学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○相互を助け、競争を目的に判断することともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○豊かな経験に裏打ちされた論議を旨とし、課題意識と探究心をもって自己研鑽を究めるとともに、能を示している。	
社会性・コミュニケーション力	○コミュニケーションスキルを身に付け、他者と協働的に関わり、助け合っている。	○教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○組織のコミュニケーションを活性化する方法とともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、互いから協働づくりをしている。	
幼児理解・援助力	○幼児理解の意義や幼児教育における環境の意義を理解し、教育支援や教育相談等の基本的な方法を身に付けている。	○幼児に向き合い、一人ひとりの人格を尊重し、共感的理解に努めるとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導や環境の構成をしている。	○幼児の発達や個性等をより多面的に理解し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるような教育的・計画的に指導や環境の構成をすることともに、若手教員に助言をしている。	○幼児を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で幼児の理解や指導の方向性について共通理解を促し、環境づくりをしている。
組織づくり力	○担任の職務内容や責任づくりの意義を理解し、学級経営の基本的な指導方法を身に付けている。	○集団の結束力や士気を基に、それぞれ一貫性のある指導をしている。	○長年勤続等様々な集積活動に対して、よりよい集団に高めることともに、集団相互の関わりを活性化させている。	○園全体の集団づくりの取組を奨励するとともに、活性化させるための具体的な指導を推進している。
課題解決力	○園の生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○様々な課題に気づき、幼児、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携しながら、課題解決を図り、その様々な方法について若手教員に助言をしている。	○園が直面する様々な課題を把握し、的確な対応の取組や対応の進め方を図っている。
特別な配慮を要する幼児への理解・支援力	○特別支援教育の重要性を理解し、基本的な理解・支援の方法を身に付けている。	○一人一人の教育的ニーズを把握し、他の教職員や保護者と相談しながら、適切に指導・支援をしている。	○教育的ニーズに対応するための専門性を高め、幼児の成長を促す指導・支援を行うとともに、関係機関とも連携し、特性に応じた指導・支援の在り方を構築している。	○インクルーシブ教育システム構築に向けた取組づくりを推進している。
キャリア教育実践力	○キャリア教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、自分の役割を自覚できる場や、学ぶことの意義を考える活動を設定し、幼児の自己有用感を高めている。	○グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、他職種や家庭・地域・企業等との連携を図ったりしながら、あらゆる教育活動を通じて指導をしている。	○園の教育活動全体を通じて、キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導が充実するよう、動いている。

※ 表内の「幼児」については幼稚園教育要領に照る。なお、保育教諭の場合、本表の「幼児」を「園児」と置き換えて解釈する。
 ※ 幼稚園教育要領においては、「指導」に「援助」「支援」の意味を含む。したがって、「特別な配慮を要する幼児への理解・支援力」に関する育成指標には、「指導」としている。

協議会の協議内容(議事要録より抜粋)

日時 令和7年1月27日(月)9時00分～10時15分 (Zoomによるオンライン会議)

【主な意見等は次のとおり】 *委員から ○本学から

- * メタバースの研修コンテンツの利用により、キャリアアップの研修につなげていくことができれば有り難い。研修が充実することは、教職員にとって非常に大切なことである。この事業を通じて、国公立幼稚園等と私立幼稚園等が連携することは有意義なことである。
- * 国公立幼稚園等については、市町村単位となっており、政策も違い、状況や要望も多様ではあるが、全体への呼びかけや発信をすることはできると考える。
- * 冊子『ようちえんで待ってるよ!』は、実習生や初めて勤務する者だけではなく、ベテラン教員にも再確認という意味で使用することができた。
- * 非正規(助教諭)の人の離職率が高く人材確保が難しいこと、また、育休を何年も取得して復職する際に、県の研修はあるが、それでも不安を抱える人が多く、そういった育休明けの人に向けた研修があると良い。
- * 新任1年目は研修や園でも手厚いフォローがあるが、2年目になるとフォローは少し薄いかも。一気に即戦力として抱えるものが多くなり、苦しい思いをしているという話も聞く。メタバースを利用することで、1年目にできた横のつながりを保つこと、メタバースの強みを生かして、顔を合わせなくても相談ができ、安心して本音と言えること、そして、学びを続けることで仲間を増やすことができるのではないかな。
- * メタバースの周知については、様々な機会に紹介することや、県の保育・幼児教育センターのホームページにリンクを貼るなどの方策を今後検討できればと思う。
- ぜひ、保育・幼児教育センターのホームページにリンクを貼ってもらい、新任研修に限らず、様々な研修に参加できなかった人がオンデマンドで研修ができる等々、連携して広めていただくと大変有り難い。
- * 今年度の冊子『ようちえんでがんばってるよ!』は、1年目の研修を終えた時点で、今後このような失敗等があるかもしれないが、みんなが経験している、支えてくれる仲間がいるということ等を伝えることができ、活用していきたい。
- * アンケートで、これから保育職を目指す人、現職の人が悩んでいる意見があれば、具体的にどのようなものだったのか知りたい。
- アンケートは簡易なフォームになっており、悩みの聞き取りは行っていない。今回の冊子作成時に、ベテラン現職者に若い頃の悩みについて聞き取りを行ったが、中・高校生等のこれから保育者を目指す人については実施していない。今後、アンケート実施の際には、これから保育者を目指す人が、どのような点で心が揺らいでいる

のか等も聞き取ることができるように検討したい。

- メタバースでは、個別相談室を開設しているが利用はなく、AIヤギ園長の使用も利用者の約 1/4 で大学生や大学院生が多い。相談内容については、プライバシーの観点からわからないようにしており、別途調査が必要である。
- * メタバースの存在はどこまで広報されているのか。また、メタバースを使用してみたいと思っても、ハードルが高いと感じる人がいる。一度使用することでその良さがよくわかるので、実際に使用してみる機会をどこで作ることができるのか。機会を設けることで、ハードルを下げて利用者を増やすことができるのではないか。
- イベントや講演会等でメタバースの広報をしているが、大きな広がりにつながる広報はできていないため、今後、考えていきたい。
- * メタバースについて、学生には授業で取り上げて一度体験してみることで、その後の使用につなげていくことができるのではないか。また、メタバースが幼稚園教諭に限らず保育職は利用できるのであれば、保育士にも活用を広げていくことができる。
- * 「職」の魅力発信と人材確保の好循環という、新たな人を開拓していくことが主になりがちだが、現在、職に就いている人が長く続けていくために、ちょっとしたアドバイスや方向性を知ることができる活動がたくさんあり、これがベースであることを改めて感じた。
- * 来年度も実施するのであれば、協力していきたい。
- * 今回、様々なところと連携しながら研修素材の提供ができることがわかり、大変有意義であった。ネットワークが少しずつ広がり、多様な人達に関わってもらえるような場づくりができる手応えを感じたので、来年度も実施することになれば、このことも視野に入れて考えていきたい。また、育休明けの人への支援等、いかに現場での困りごとがあるかを聞くことができたことから、丁寧にフォローしていくための情報発信ができるのではないかと思う。有益な意見をいただくことができた。
- 今回、多岐にわたる意見をいただき、お褒めの言葉もあったが、まだまだ足りない部分や課題も見つけることができ、非常に有益であった。この事業について、まだ十分に知られてはいないので、委員の皆さんのネットワークを通じて、できるだけ多くの人に周知していただき、メタバースもできるだけ多くの人に使ってもらえれば非常に有り難い。来年度も続けて欲しいという意見もいただき、実施することになれば頑張っていきたい。

(3)職の魅力再発見と現職教諭応援ハンドブック『ようちえんでがんばってるよ！-幼児を育てる仕事を続ける楽しさ-』冊子の作成と配布(取組D、F、J、L)

2023年度に『ようちえんで待ってるよ！-幼児を育てる仕事の楽しさとやりがい-』を作成し、徳島県内の全高等学校・中学校、徳島県国公立幼稚園・こども園教育研究会、私立幼稚園協会等、さらには全国47都道府県の国公立幼稚園・こども園教育研究会、全国私立幼稚園機構他に発送し、受け取った方々から好評を得た。2024年度はその続編として『ようちえんでがんばってるよ！-幼児を育てる仕事をつづける楽しさ-』を作成することにした。

①冊子の作成過程

『ようちえんで待ってるよ！-幼児を育てる仕事の楽しさとやりがい-』の対象者は、これから保育者を目指す人たちであった。そこで今回の冊子は、保育者を目指す人に加え、すでに保育現場で奮闘する人たちも読者対象とし、保育者としての悩みや葛藤を抱えながら成長していく姿を伝えることにした。

作成は、次の手順で行った。

1. 現職保育者に実施するアンケート調査項目の検討
2. 現職保育者へのアンケート調査実施
3. アンケート調査の集計、分析、考察、冊子内で取り上げるエピソードの精選／保育者の成長過程についての資料検討
4. 調査結果のエピソードを参考にオリジナルのストーリー(3. 漫画部分の原作)を作成
5. 4. をプロ漫画家に依頼(ストーリーの漫画化)
6. 漫画の画風(登場人物の表情や動き等、挿絵の細部等)や内容等を漫画家と検討
7. 冊子案初稿提出、校正と修正
8. 冊子の完成

○はじめに 先輩からのエール
これから保育者を目指す人へ
今、がんばって働いている保育者へ
1. 「せんせい」は1日にして成らず
2. 失敗しても大丈夫！
①みんな色々悩んでる
②こんなこともあったよ
③こうやって乗り越えたよ
3. そして「せんせい」になる(マンガ)
○ヤギ園長からのメッセージ
資料: いろいろな幼児教育施設

図 2-5 冊子の構成

②冊子を作成して

今回の冊子において、作者らがこだわった点は、「現場で子どもたちと向き合いながら、日々奮闘する保育者の生の声を伝えること」「悩むこと、大変なことはたくさんあるが、幼児教育の現場には嬉しいこと、楽しいこと、やりがいがあり、様々な気持ちや葛藤を経験しながら保育者自身が成長していく過程を伝えること」であった。

刷り上がった冊子を保育者、保育を目指す人たちのほか、子どもに関わる多くの人たちに配布し、幼児教育の魅力を発信していく。



図 2-6-1 ハンドブック表紙



図 2-6-2 冊子の一部(漫画)

3 メタバースを中心とした「職」の魅力向上と発信のプログラムと関係諸機関との連携

湯地 宏樹・佐々木晃

昨年度構築の2Dメタバースは、操作性において8割の高評価を得たものの、未成年利用者の特性から、人権・いじめ対策、ネット依存予防のためのルール整備、セキュリティ強化、さらにジェンダーに配慮したアバターの多様化が課題として浮上した。これを踏まえ、生成AIの活用とゲーミフィケーション要素の導入により、多様なニーズに応える機能拡張を図ることとした。

本年度、メタバースを中心とした「職」の魅力向上と発信における本事業の目的は、以下のとおりである。

- (1) 適切な職業紹介事業などの普及啓発(取組E)
- (2) 周辺幼稚園等からのPR機会の設定など、自治体を実施する人材確保施策と連携したキャリア支援(取組F)
- (3) 養成校生プロデュース、幼児教育の「職」の魅力・発信(取組I)
- (4) 県内外の教育委員会や幼児教育センター、幼児教育関係団体と連携した体系的な現職研修の機会の確保(取組K)
- (5) 自治体を実施する潜在幼稚園教諭等の掘り起こし等の取組と連携した円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施(取組L)
- (6) 男性幼稚園教諭等(現職教諭、離職者)、幼稚園教諭等を目指している男性や他業種からの人材確保の取組(取組M)

メタバースでの取り組み内容は以下のとおりである。

1. 保育の専門知識を問う保育クイズ。
2. 生成AIを活用した保育相談の試験運用。
3. 養成校生による幼児教育職の魅力発信。
4. 保育者向けセミナー・研修資料の情報提供。
5. 地域幼稚園等と連携したPR活動とキャリア支援。
6. 潜在幼稚園教諭等の人材発掘。

なお、高校生以下の児童・生徒が利用することから、個人情報の取扱い、人権・いじめ対策、ネット依存予防などのために、以下の点について配慮した。

- ・ メタバース利用に際し、所属・氏名・メールアドレスによる本人確認を必須とした。また、誹謗中傷の禁止やプライバシーの尊重、利用時間遵守等の利用規約に同意を求め、安全で快適な環境維持に努めた。
- ・ 利用時間を8:30～21:30に制限し、長時間利用を防止した。
- ・ 高校生向けに専用アバター4種類を用意し、一般参加者と区別可能とした。
- ・ 一般参加者用として、ジェンダーに配慮した8種類のアバターを選択可能とした。
- ・ 個別相談およびAI相談は、プライバシー保護のため独立した空間で実施し、相談内容の秘匿性を確保した。



図 3-1 「なるきょう メタバース 森のようちえん」©ARTORY



図 3-2 アバター(高校生用・一般用)

①メタバースの利用頻度

入園手続者は、中学生135名、高校生16名、一般(保育者・学生・院生・その他等)105名、合計256名であった(2025年1月27日現在)。そのうち、アンケート調査の回答者数は、大学生・院生4名、保育者42名、その他6名で、合計52名であった。

「初めて利用した」が61.5%と最も多く、過半数以上を占めている。「月に1~2回程度」の利用者が34.6%。「週に1~2回程度」と比較的頻度高く使う層は3.8%にとどまる。全体の約6割が「初めて利用した」と答えていることから、多くの人にとってメタバースがまだ新しい体験であることがうかがえる。メタバースという概念自体が一般には十分浸透しきっていない段階で、興味・関心を持ちつつも実際に利用してみる人が増えているが、まだ一部に留まるといえる。一方、月1~2回程度の利用が約3割、週1~2回程度は3.9%と、ある程度習慣化・継続的に利用する層は少ない。利用者が日常的に使う動機が確立しきっていない可能性が考えられる。

今後は、定着や継続利用を促進するコンテンツ・体験作りが課題となり、イベントやコミュニティ形成を通じて「また入りたい」「頻繁に使いたい」と思わせる仕組みづくりが求められるだろう。

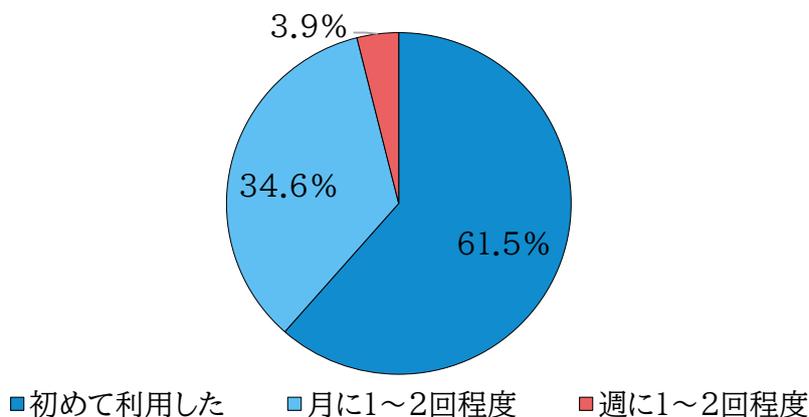


図 3-3 メタバース利用頻度

②メタバースの利用頻度

「10分未満」の利用が66.0%と、過半数を大きく上回り最も多い。「10~30分程度」が22.0%、続いて少し長めに利用して、「30~60分程度」が4.0%と少数、「1時間以上」利用する層は8.0%と一定数存在するものの、全体としては少ない。

約3人に2人が「10分未満」でメタバースから離脱しており、非常に短時間で利用を終えてい

ることがわかる。初めて利用する人や、試しにアクセスしてみて操作感や雰囲気を確認する程度で離脱するケースが多い可能性がある。

多くのユーザーを定着させるためには、初回利用時の導入のしやすさや魅力的なコンテンツの設計が重要であり、短時間でも十分楽しめる体験づくりや、長時間利用したくなるイベント・コミュニティの拡充が今後の課題となる。

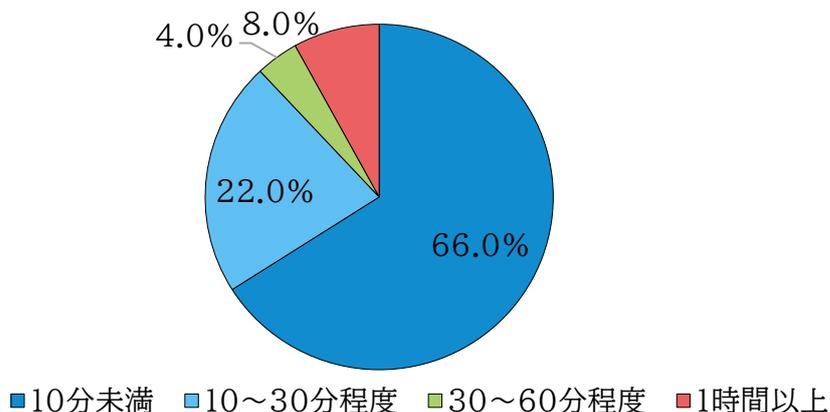


図 3-4 メタバース利用時間

③メタバース・コンテンツの利用頻度

メタバース内のコンテンツの利用頻度について、「大変よく利用した」と「よく利用した」を合計した割合を見てみると、こどものつぶやき(40.3%)が最も利用率が高い。続いて、幼稚園PRコーナー「ようちえんで まってるよ」(38.5%)、保育クイズ(36.5%)が3割を超える利用率を示している。AIやぎ園長も19.2%に留まっている。学生コーナー「キタイのミライ」が最も低く5.8%の利用率となっている。コミュニケーションの場となる掲示板やQ&Aコーナーはやや伸び悩む結果となった。

今後の利用促進策としては、インタラクティブな仕組みづくり、情報・コンテンツの継続的な更新、AI要素や動画コンテンツの拡充を行い、高利用率のコンテンツをさらに充実させつつ、コミュニケーション系のコーナーの参加促進策を講じることで、より活発で有用なプラットフォームに成長できると考えられる。

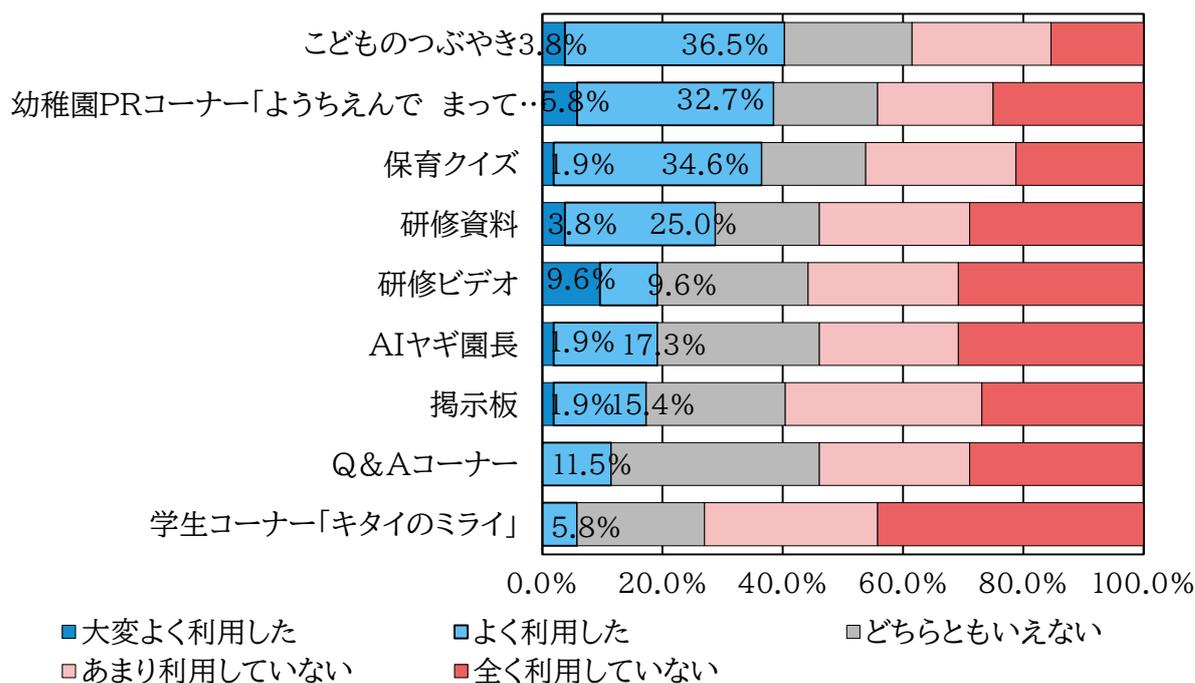


図 3-5 メタバース・コンテンツの利用頻度

④メタバースの感想

メタバースの感想について、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合計した割合を見てみると、絵や見た目がきれい(80.8%)が最も高い評価を得ており、ビジュアル面の魅力が利用者に強く訴求していることがわかる。続いて、短時間でも見られる(73.1%)、何度も繰り返して見られる(73.1%)が多く、手軽にアクセス・リピート可能な点に価値を感じる利用者が多い。気楽に見られる(71.2%)、アバターを選べるのが楽しい(69.2%)など、気軽に使え、アバターなどのカスタマイズ要素はユーザーの興味を引きやすく、高い利用意欲につながっている可能性がある。機能やコンテンツが充実している(65.4%)、分かりやすい(61.5%)、理解しやすい(61.5%)、親しみやすい(59.6%)、安心して利用できる(57.7%)などが5割を超えている。操作しやすい(55.8%)は過半数以上が操作性を肯定的に評価しており、さらに向上させる余地はありつつも、多くのユーザーにとって利用は困難ではないといえる。空間を共有しているような臨場感がある(50.0%)と、メタバースに求められる没入感・臨場感は一定程度評価されているが、より一層の強化を望む声がある可能性がある。リアルタイムでコミュニケーションしやすい(30.8%)は最も低い評価項目であり、同期型コミュニケーションツールとしての機能や魅力には課題が残る。

今後は、コミュニケーション機能・操作性・臨場感をより強化することで、「見て楽しむ」だけでなく「人とつながって楽しむ」場としてのメタバースの魅力を高める施策が求められるだろう。

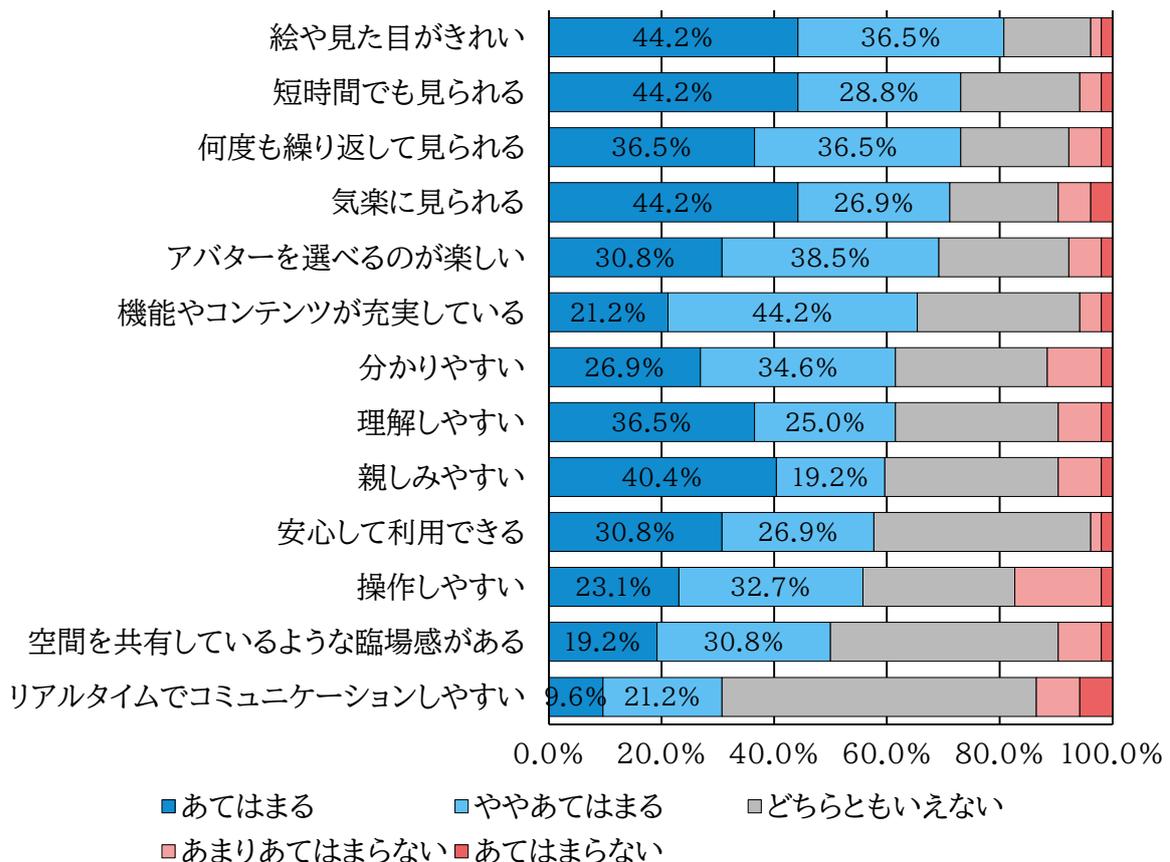


図 3-6 メタバースについての感想

④ メタバースの評価

「メタバース利用前後でどの程度変化があったか、またはどの程度役立ったと感じるかを5段階で回答してください」と尋ねた。「非常にそう思う」と「そう思う」を合計した割合を見てみると、「幼児教育・保育に関する知識が深まった」「自身のキャリアアップやスキルアップのための情報収集に役立った」がともに63.5%で最も評価が高い。メタバース空間や提供される資料を通じて学習や情報収集ができることが、多くのユーザーにとって有益と感じられた。「メタバース内の研修ビデオや資料を現職研修として受講してみたい」も59.6%と過半数以上で、オンラインで手軽に研修・学習できる点が注目されていると推察される。「保育者の魅力的な仕事のイメージが得られた」は55.8%で、メタバース上のコンテンツから、保育のやりがいや魅力を感じ取るユーザーが一定数いる。「AIで保育に関する相談や日誌等の添削が役に立った」は19.2%と最も低い評価で、まだ試験的要素が強い、あるいは十分な精度・情報量を実感できていないなど、課題が残ると考えられる。メタバースを活用した研修や情報収集は、保育に関する知識の向上やキ

キャリアアップ支援として好意的に受け止められており、今後も利用拡大の可能性が高い。一方で、AIを活用した相談や添削機能はまだ発展途上であり、精度やユーザビリティの向上が課題として浮き彫りになっている。コンテンツ・機能のさらなる充実と認知度向上により、保育者や学生にとってより効果的な学びや業務支援の場となることが期待される。

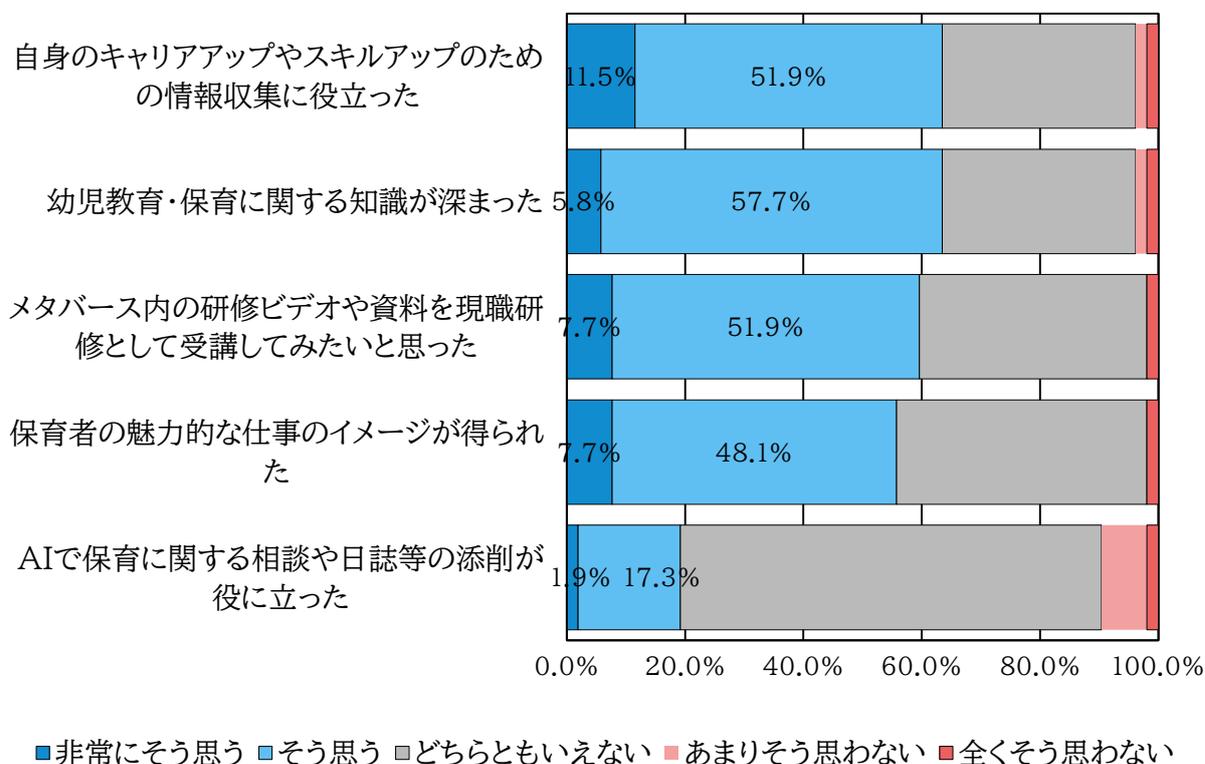
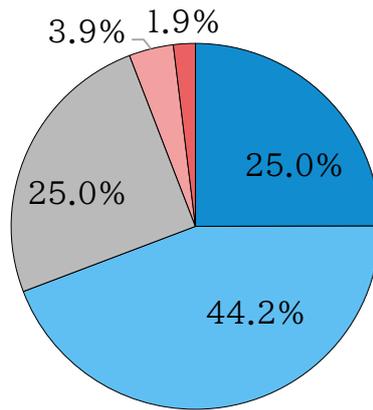


図 3-7 メタバース利用前後でどの程度変化があったか

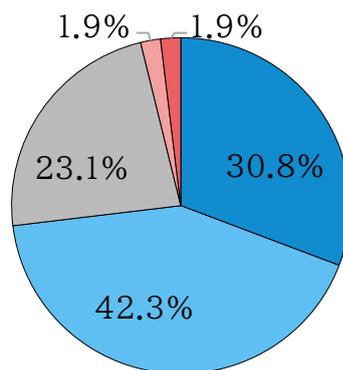
「今後もこのメタバースを継続して利用したいと思いますか」と尋ねたところ、「ぜひ利用したい」25.0%、「やや利用したい」44.2%と合計すると約70%近くが前向きに利用を継続したいと回答している。「どちらともいえない」25.0%、「あまり利用したくない」3.8%、「全く利用したくない」1.9%の回答は少数にとどまっている。全体としてはメタバースを「今後も使いたい」と感じている層が約7割に上り、非常に高い利用意欲が示された。一方で、利用継続の判断が定まらないユーザーも一定数いるため、魅力的なコンテンツや分かりやすい操作の提供によって、この中間層の利用意向を高めることが重要となる。



- ぜひ利用したい ■やや利用したい ■どちらともいえない
- あまり利用したくない ■全く利用したくない

図 3-8 今後もこのメタバースを継続して利用したいと思いますか

「これから保育者を目指している生徒や学生、他業種の人たちに、このメタバースを勧めたいと思いますか」と尋ねたところ、「ぜひ勧めたい」30.8%、「やや勧めたい」42.3%、合計すると約73.1%が「勧めたい」という肯定的な姿勢を示している。「どちらともいえない」23.1%と約4人に1人は、まだ判断がつかず中立的な立場であった。「あまり勧めたくない」1.9%、「全く勧めたくない」1.9%と否定的な回答は合計でも4%弱いる。約7割以上のユーザーが「他の人にも勧めたい」と考えており、メタバースに対して好意的な評価をしていることがわかる。一方、判断がつかずに保留する層にもアピールできるよう、操作性や内容のさらなる改善、メリットの明確化が今後の課題と言えるだろう。



- ぜひ勧めたい ■やや勧めたい ■どちらともいえない
- あまり勧めたくない ■全く勧めたくない

図 3-9 これから保育者を目指している生徒や学生、他業種の人たちに、このメタバースを勧めたいと思いますか

以上の結果から、メタバースを中心とした「職」の魅力向上と発信のプログラム成果と課題をまとめると、次のとおりになる。

【成果】

- 利用者の約6割が初めて利用しており、新規体験としての魅力が高いと考えられる。
- 約7割が「今後も使いたい」と回答し、継続意欲や好意的評価の高さがうかがえる。
- 視覚的魅力や操作性が評価され、短時間でもアクセスしやすく何度も利用したくなる設計が好評を得ている。
- 約6割の利用者が保育に関する知識向上を実感し、研修ビデオや資料の活用によってキャリアアップにつながる可能性が高い。

【課題】

- 初めて利用する人や「10分未満」での利用者が多く、継続的・日常的な利用を促す仕組みが求められる。
- コミュニケーション機能の評価が低く、特にリアルタイム交流や掲示板の活性化が課題となっている。
- AIを活用した相談や添削機能の評価が低いため、精度や使いやすきの向上が不可欠である。
- 「どちらともいえない」と回答する層が一定数存在するため、コンテンツの拡充や分かりやすきの追求を通じて利用意向を高める必要がある。

Ⅲ 事業全体のまとめ

1 事業の成果

9月に実施したイベントでは、多くの保育者や学生が参加し、「保育の魅力を再認識できた」「職への誇りやモチベーションが高まった」といった声が数多く寄せられた。これにより、保育職に対する関心が一層深まり、将来的な人材確保につながる効果が得られたと考えられる。また、現職者同士が悩みや課題を共有・解決する機会が生まれたことで、離職を防ぎ、人材が定着する可能性も示唆されている。

さらに、保育者の仕事の魅力を具体的に伝えるコンテンツは、多くの利用者から高く評価され、約6割以上が「保育のイメージが得られた」と回答している点も注目に値する。加えて、メタバースを活用したオンライン研修や資料によって知識が深まったと感じる利用者は約6割に上り、学習ツールとしてのニーズが十分にあることがうかがえる。実際に、メタバース継続利用を希望し、他の人にも勧めたいと回答した利用者が約7割にのぼっているため、新規参入者や他業種からの転職希望者へも効果的にアプローチできる可能性が高いといえる。

まず、基調講演と現職保育者10名によるエピソード紹介を組み合わせることで、実際の保育現場をリアルに伝える具体的な体験談が共有された。これにより、保育職の魅力ややりがいを強く発信し、参加者の意欲や関心を高めることに成功している。あわせて、ファンリテーターを配置して行ったグループディスカッションでは、多様なキャリアや立場をもつ保育者たちが初対面でも有意義に語り合える環境を整備し、保育の現場課題や魅力を深く共有する場として大きな成果をあげた。

さらに、幼稚園PRコーナー「ようちえんで まってるよ」をはじめとした、視覚的に訴求力のあるコンテンツが多くの利用者に支持され、保育現場のリアルな魅力を伝えることに成功している点も見逃せない。メタバースに関しては、研修動画や保育クイズなど学びの要素を盛り込むことで、既存の保育者だけでなく、これから保育者を目指す人のキャリアアップやスキル獲得へのモチベーションを高めている。

また、アバターの選択や短時間でも楽しめる操作設計といった「気軽に参加できる仕組み」を整えたことも大きな効果をもたらした。初めての利用者でもハードルを下げ参加できる工夫がなされたことで、新規ユーザーが増え、より多くの人材に対して保育の魅力や学習の機会を効果的に発信できたと考えられる。

2 今後の課題と展望

幼稚園教諭には保育士のような学費免除や一時金といった行政の優遇措置が設けられていないため、人材確保の面でハンディとなっている実態が改めて参加者の声として確認された。これは、幼稚園教諭の応募が期待ほど増えにくい要因の一つと推察される。また、男性保育者の参入や活躍が十分に広がらない背景として、年度初めの保護者理解など現場での受け止め方によらつきがあることも示唆された。

さらに、周辺幼稚園等からのPR機会の設定など、自治体と連携したキャリア支援の一環として、メタバース上での動画作成などを活用したPRの可能性を提示したが、多くの自治体や私立幼稚園・こども園では既に人材派遣会社と契約し、人材の確保を進めている現状があり、人材の確保が容易でない実情が改めてうかがえる。

加えて、自治体を実施する潜在幼稚園教諭等の掘り起こし等の取組と連携した実践的な研修の場では、ある町立のケースの場合、会計年度職員を対象に実践的な研修を行い、その際のアンケートから、潜在的な幼稚園教諭の掘り起こしにおいては若年層よりも子育てを終えた世代の復帰が多いことが判明している。メタバースを利用した自主研修よりも、勤務時間内に研修を行うことを求めているという意見も寄せられており、研修スタイルや時間帯への配慮が必要であると考えられる。

本年度のイベントは高い評価を得ているため、焦点を絞ったテーマの設定や、多様な参加者層をさらに増やす工夫を取り入れた継続的な開催が、保育の魅力発信を一層強化する上で有効であると考えられる。また、徳島県教育委員会や他大学、協会との連携を強化し、県内外に広く周知することで、保育職の魅力をより多くの人に伝えることが期待される。高校生向けと一般向けの空間・機能を分離し、利用者のニーズに応じた設計を進めることや、AI相談の学習データを拡充し、専門家が監修することで、回答精度と信頼性を高めることも重要である。

加えて、定期的なイベント開催やコンテンツ更新によって利用率を高め、連携機関と協働する場面をより増やしていくことが望ましい。こうした取り組みを通じてキャリア支援を充実させることで、潜在的な幼稚園教諭等の人材発掘にも寄与すると考えられる。さらに、徳島県教育委員会総合教育センターや徳島県私立幼稚園協会のホームページとリンクさせ、キャリアステージに応じた研修コンテンツや、産休・育休後の現場復帰支援コンテンツを提供することも、今後の取り組みとして大変有効である。なお、これらの連携については、すでに快諾を得ているため、積極的に実施していきたい。

謝辞

本事業は、文部科学省令和6年度「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」に採択され、実施いたしました。

令和6年9月22日（日）に開催した「保育者ほど素敵な仕事はないⅡ」のイベントには、多くの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。コメンテーターやご登壇いただいた先生方、ランチ交流会でファシリテーター兼アドバイザーを務めてくださった院生の皆様、そして運営を支えてくださった学生スタッフや教職員の皆様にも、心より感謝申し上げます。また、メタバースには250名を超える方々が入園手続きを行い、AIアカデミーなどの関連イベントにも多数ご参加いただきました。この場をお借りして、改めて厚く御礼申し上げます。さらに、「保育者ほど素敵な仕事はないⅡ」のイベント、ハンドブック『ようちえんで待ってるよ！』、およびメタバースに関する各調査にご協力いただいた皆様にも、深く感謝申し上げます。ご多忙のなか貴重なご意見をお寄せいただき、本事業の発展に多大なご貢献を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

最後に、本事業の実施に際し、多大なるご支援を賜りました TOPPAN 株式会社様に、心より感謝申し上げます。この場をお借りし、改めて深く御礼申し上げます。

令和7年2月発行

文部科学省

令和6年度「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業
（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」

事業成果報告書

発行者 国立大学法人 鳴門教育大学 鳴門教育大学大学院学校教育研究科 幼児教育コース
〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地
電話番号 088-687-6101（鳴門教育大学教務部学術情報推進課教育連携企画係）
E-mail youji@naruto-u.ac.jp